

日本には多くの温泉があるが、その分布はおおむね火山の分布と一致している。これは、温泉の多くが、地中にしみこんだ雨水が火山の地下にあるマグマの影響で温められたものだからである。ほかに数は少ないが火山とは結びつかない温泉もある。

温泉には、地中の地下水の分布や岩石の成分の違いによって、溶け込んでいる物質が異なり、単純泉（含有成分が少ないもの）、塩化物泉、硫黄泉、酸性泉など多くの泉質がある。温泉浴の効能も異なっている。

## 温泉の楽しみ [温泉は火山の恵み]

大湯沼川にある天然の足湯（登別温泉）

地獄谷の噴気（登別温泉）

### Column

#### 温泉の効用

温泉には、それに含まれる成分による療養・病氣予防の効果や、日常生活から解放されて自然環境の中に身を置くことによる精神的な効果など、さまざまな効用がある。日本人は全身浴槽に浸かり、ゆっくりと暖まるのを好み、「風呂好きな民族」といわれる。温泉利用の歴史も古く、8世紀に成立した日本最古の歴史書・古事記に、すでに温泉に関する記述がある。

また、温泉は温泉浴だけでなく、いろいろなことに使われている。直接、熱源として動植物の飼育や栽培に利用するだけでなく、ヒートポンプによって排湯から熱を取りだし、施設の暖房に使用することもできる。壮瞥町では農家が温泉を利用して、大型ハウスでトマトの栽培を行っている。

## 主な温泉と見どころ案内



定山溪温泉

### 炭酸水素塩泉、硫酸塩泉 支笏湖温泉

支笏湖畔唯一の集落である。公園指定後に計画的に整備されたため、施設が樹林に溶け込んで落ち着いたたたずまいを作っている。温泉は昭和49年（1974）にボーリングによって湧出したもので、泉質は炭酸水素塩泉である。支笏湖野鳥の森（→p19）が近い。近くの千歳川にかかる赤い鉄橋は、かつてあった苦小牧からの王子製紙会社専用鉄道（山線）のもので、北海道に残る最古の鉄橋である。なお、支笏湖北岸にはほかに、丸駒温泉という温泉がある。泉質はともに炭酸水素塩泉、硫酸塩泉。



という温泉

### いろいろな泉質 登別温泉

日本の代表的な温泉地の一つ。アイヌ民族に古くから知られ、江戸時代末期には函館に詰めていた役人なども湯治に使っていた。1日1万トンを超える湯量と、硫黄泉、硫化水素泉、含鉄泉など11もの泉質を持ち、いろいろな泉質を楽しめる。

める。そのため、さまざまな温泉療養の研究が、近代医学の立場から行われてきた場所でもある。

温泉街の近くには、いまでも激しく火山ガスや熱湯を噴出している地獄谷や大湯沼がある。大湯沼から流れる川沿いにベンチがあり、天然の足湯が楽しめる。

### 塩化物泉、炭酸水素塩泉 洞爺湖温泉

明治末の有珠山噴火で温泉が湧出し、湖畔の温泉街として発展してきた。有珠山と共に生きる町づくりを積極的に進めている（→p8-9）。泉質は塩化物泉、炭酸水素塩泉。十数カ所に手湯、足湯の設備がある。また、西山火口や金比羅火口の遊歩道を歩けば平成12年（2000）噴火の爪あとを間近に観察できる。



### 塩化物泉 定山溪温泉

温泉街を形成する規模の大きな温泉で、豊富な湯量を持つ塩化物泉である。



丸駒温泉



洞爺湖温泉

慶応2年（1866）に岡山の僧、定山によって発見された。札幌市の郊外にあり、市民の休養の場として古くから親しまれている。温泉の上手には、豊平川に沿って2.5kmの遊歩道がある。



### 硫黄泉

#### 北湯沢温泉

洞爺湖の東方、長流川に面した温泉で、泉質は硫黄泉である。温泉から溪流沿いに遊歩道があり、温水のせせらぎを素足で歩行できる足湯がある。また、近くにスキー場もある。

### ラジウム

#### カルルス温泉

登別の約8km北方にある硫酸塩泉。昭和32年（1957）に北海道で最初に指定された国民保養温泉地で、いまでも湯治場の雰囲気を残す。カルルスという名前は、ラジウムを含有する泉質がチェコの名湯カルルスバード（現カルロヴィ・ヴァリ）に似ているため。

### まつりとイベント



#### 昭和新年雪合戦

雪玉をぶつけ合う単純な遊びをルール化した。年々参加チームが増加し、最近ではフィンランドでヨーロッパ選手権が開かれるまでになっている。



#### 支笏湖氷濤まつり

住民手づくりのまつりから千歳市を代表するイベントに成長した。湖畔に多数の氷像が立ち並び、夜はライトアップされて幻想的な雰囲気を醸し出す。



#### 登別地獄まつり

年に一度、地獄谷の地獄の釜のふたが開き、閻魔大王が大勢の鬼たちを従えて現れる。閻魔大王の山車や鬼御輿が温泉街に繰り出す陽気なまつり。